



General Oyster

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

2026年8月14日

株式会社ゼネラル・オイスター
(3224)



1. 2027年3月期 第1四半期 決算 トピックス



2027年3月期 第1四半期 決算ハイライト

1 売上は前年に比べ29%増加（全セグメントで増収）

2 営業損益は△26百万円、最終損益は△17百万円

3 通期配当は10円を予定

第1四半期 連結業績について

売上高は、前年同期比29.2%の増収となった一方で、営業損益は、店舗事業の原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加をカバーできず、四半期営業損失26百万円（前年同期は四半期営業損失79百万円）。

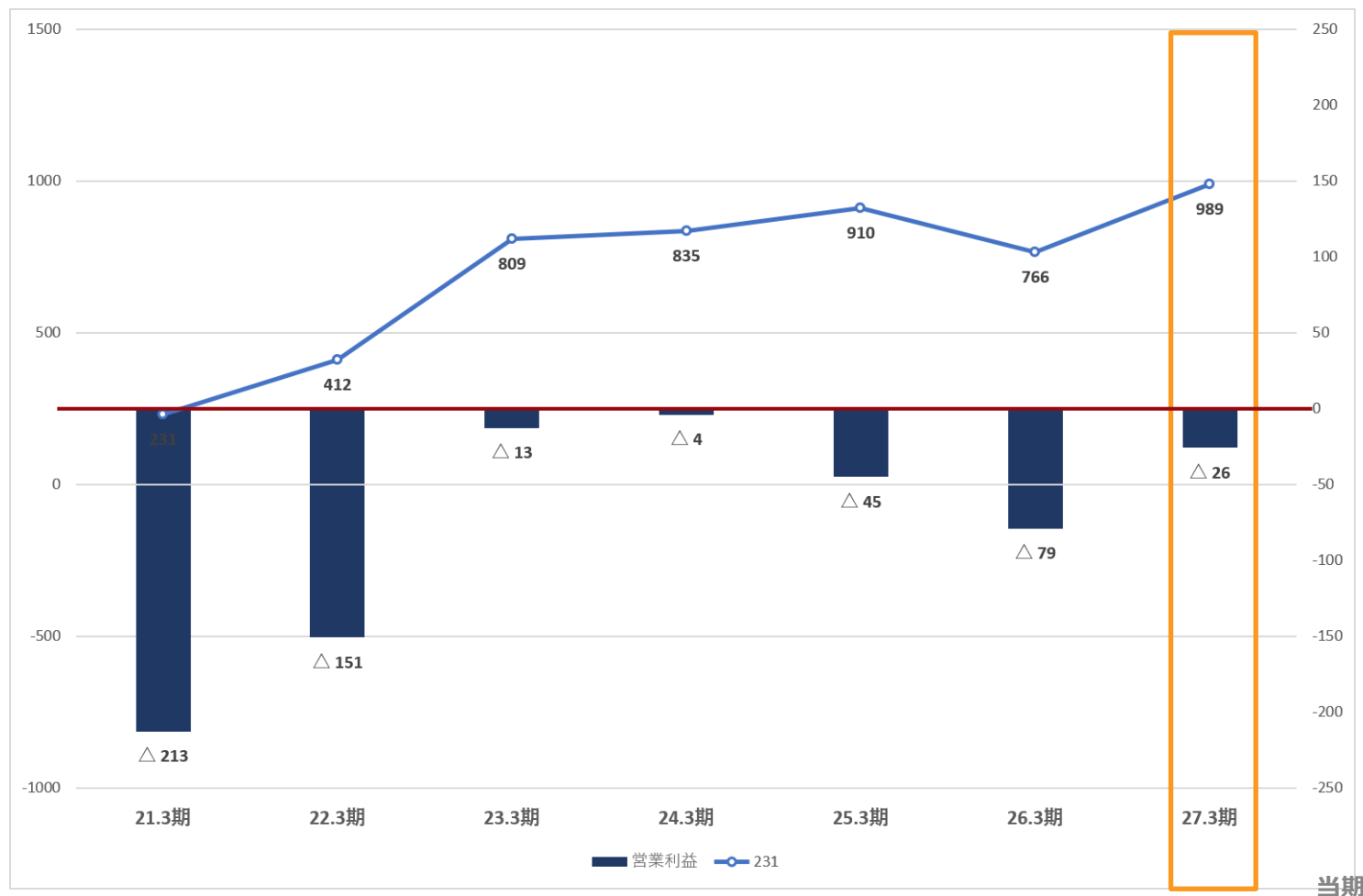
（単位：百万円）

売上高

9.89
億円

営業利益

△26
百万円



当期

2027年3月期 第1四半期 概要

売上高は989百万円（前年同期比29.2%増）と増収。営業損益は店舗事業が原材料費や人件費の高騰などによる販管費の増加により26百万円の営業損失（前年同期は79百万円の営業損失）。

親会社株主に帰属する四半期純損失17百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失71百万円）。

	2020年3月期 第1四半期 (参考・コロナ前)		2026年3月期 第1四半期		2027年3月期 第1四半期		前年同期比 (%)
	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	実績 (百万円)	構成比 (%)	
売上高	803	100.0	766	100.0	989	100.0	223 (+29.2%)
売上原価	280	34.8	256	35.6	330	33.3	74 (+29.1%)
売上総利益	523	65.1	509	64.3	659	66.6	149 (+29.2%)
販売管理費	594	73.9	589	63.5	686	69.3	96 (+16.4%)
営業利益	△71	△8.8	△79	△0.8	△26	△2.6	52
経常利益	△70	△8.7	△80	△0.7	△27	△2.7	52
特別利益	-		0		8		
特別損失	-		-		-		
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△63	△7.9	△71	△4.1	△17	△1.9	53

- 1 店舗事業の
販管費が前年
より増加
- 2 店舗事業の
営業損益はコスト増
により収支が悪化

貸借対照表概要

2027年第1四半期の総資産は29.65億円。

自己資本は14.60億円、自己資本比率は49.2%。引き続き、収益力を高め、財務基盤の強化を図る。

(百万円)	2026年3月期 期末	2027年3月期 第1四半期		2026年3月期 期末	2027年3月期 第1四半期
資産の部			負債の部		
流動資産	1,601	1,590	流動負債	661	716
現金及び預金	779	696	買掛金	105	165
売掛金	230	245	短期借入金 ^{*1}	80	80
原材料	65	84	その他	477	471
未収入金	2	8	固定負債	799	779
その他	522	555	長期借入金	209	189
固定資産	1,409	1,375	その他	589	589
有形固定資産	1,002	981	負債合計	1,462	1,496
その他	9	8	純資産の部		
投資その他資産	397	385	株主資本	1,531	1,460
敷金及び保証金	325	312	その他	17	8
その他	72	72	純資産合計	1,548	1,469
資産合計	3,011	2,965	負債純資産合計	3,011	2,965

*1．1年内返済予定の長期借入金を含む

2027年3月期第1四半期 セグメント別業績概況

全セグメントにおいて増収になりました。また、原材料価格や人件費等の上昇が続く中、原価管理の強化、店舗オペレーションの効率化等に取り組んだ結果、店舗事業については、セグメント利益につきましても前年同期のセグメント損失から黒字転換いたしました。浄化事業においては、工程の効率化および原価管理の強化にも取り組んでまいりましたが、原材料価格の上昇等の影響により、収益性の改善には至りませんでした。

セグメント売上高

セグメント利益

(百万円)	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前年同期比	増減率
店舗事業	664	829	165	24.9%
卸売事業	88	98	9	11.2%
加工事業	24	49	24	102.0%
浄化事業	185	218	33	18.0%
再生可能エネルギー事業	—	48	48	—
その他 ※1	13	13	0	0.9%
調整	△209	△267	△58	27.8%
合計	766	989	223	29.2%

(百万円)	2026年3月期 1Q	2027年3月期 1Q	前年同期比	増減率
店舗事業	△16	25	42	—
卸売事業	20	19	0	△2.7%
加工事業	△3	0	14	—
浄化事業	△9	△11	△1	—
再生可能エネルギー事業	△0	3	4	—
その他 ※1	△0	△3	△2	—
調整	△58	△62	△3	—
合計	△79	△26	△33	—

*1 : EC通販など

*1 : EC通販など

店舗事業

既存店の収益力向上および新規出店に取り組んだ結果、売上高は前年同期を上回りました。原材料価格や人件費等の上昇が続くなか、収益性の向上および店舗運営の効率化に取り組んだ結果、セグメント利益は前年同期のセグメント損失から黒字転換し、増収増益となりました。

(百万円)	2026年3月期	2027年3月期	前年同期比	増減率
売上高	664	829	165	24.9%
営業利益 (*1)	△16	25	42	—
営業利益率	—	3.0%	—	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

店舗事業（出退店及び店舗数について）

- ・ 2025年5月にFC3号店として「8TH SEA OYSTER Bar 和歌山店」（和歌山市友田町）
- ・ 2025年11月に「8TH SEA OYSTER Kitchen 虎ノ門店」
- ・ 2026年3月「L'ECAILLER 8TH SEA OYSTER TAKANAWA店」（東京都港区）、
「Mare & OYSTER 大井町トラックス店」（東京都品川区）をオープン。

なお、当第1四半期累計期間における新規出店はありません。

	2026年3月期 期末 店舗数	増減数		2026年 6月末 店舗数	業態変更
		出店	退店		
直営店舗 合計	30	0	0	30	
FC店舗	3	0	0	3	
全店舗店舗 合計	33	0	0	33	

卸売事業

販売先の拡大等により売上高は増加したものの、原材料価格の上昇等の影響により利益率が低下したこと等から、増収減益となりました。

(百万円)	2026年3月期	2027年3月期	前年同期比	増減率
売上高	88	98	9	11.2%
営業利益 (*1)	20	19	△1	△2.7%
営業利益率	23.0%	20.1%	△2.9pt	—

*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

加工事業

直店舗およびFC店舗向けの加工品並びにパスタの製造に特化したセントラルキッチンとしての機能に注力し、生産体制の効率化に取り組んでまいりました。製造品目および生産体制の見直し等に取り組んだ結果、業績は大幅に改善いたしました。

(百万円)	2026年3月期	2027年3月期	前年同期比	増減率
売上高	24	49	24	102.0%
営業利益	△13	0	14	—
営業利益率	—	1.7%	—	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

浄化事業

直営店舗向けの牡蠣の販売価格の見直しや浄化工程の効率化、原価管理の強化に取り組んでまいりましたが、原材料価格の上昇等により、セグメント損失は前年同期に比べ拡大いたしました。

(百万円)	2026年3月期	2027年3月期	前年同期比	増減率
売上高	185	218	33	18.0%
営業利益	△9	△11	△1	—
営業利益率	—	—	—	—

*1. セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

再生可能エネルギー事業では、2023年12月に新規事業として事業を開始して以降、太陽光発電所の開発および販売に取り組んでまいりました。当第1四半期においては、開発を進めていた太陽光発電所の売買契約を締結し、収益を計上いたしました。

(百万円)	2026年3月期	2027年3月期	前年同期比	増減率
売上高	—	48	48	—
営業利益	0	3	4	—
営業利益率	—	7.6%	—	—

*1．セグメント利益は配分していない全体費用が含まれております。

2. 今後の取り組みについて



2027年3月期の経営戦略の見込み

再成長へ向けた取り組み

方針	重点施策	進捗状況	活動計画
『守りの取り組み』	コストコントロールの徹底	△	店舗事業の原材料費、人件費の低減に取り組む
再成長に向けた 『攻めの取り組み』	「EC通販の強化」など 販売チャネルの多角化	△	利益効率を考えた、告知活動へと切り替え収益性を上げていく。
	店舗事業の収益拡大	○	利益体質はさらなる強化を目指し、新規ブランドを立ち上げていく。
	国内卸売事業の収益拡大	△	付加価値を向上させ、更なる増収増益へ。
	加工事業による収益貢献	○	店舗事業のセントラルキッチンにし、収益性を上げていく。
	店舗事業のITを活用しての効率化	○	引き続き、推進
	再生可能エネルギー関連事業の成長加速	△	販売チャネル拡充による売上及び収益の拡大

3. 2027年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

オイスターの安心安全の高付加価値化の実現し既存事業の立て直しと、再生可能エネルギー事業など新たな成長軸をプラスさせ、持続的成長の実現と企業価値の向上を図ってまいります。

(百万円)	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 連結業績予想	前年同期比 (%)
売上高	4,304	4,376	+72 (+1.6%)
営業利益	△92	60	+152
経常利益	△90	59	+149
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△175	34	+209



免責事項

本資料に記載されている将来に関する内容は、当社グループが資料作成時点において入手可能な情報に基づいたものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。

特に当社グループの事業領域は、一般的な経済状況以外にも業績に影響を与えうる要因が数多く存在しているため、実際の業績等は様々な要因により将来の見通しと異なる場合があることをご承知おきください。